

2019年3月期 決算説明資料

2019年4月25日 日本瓦斯株式会社



目次

1. 決算のポイント	P.1	5. 海外事業	P.14
2. 決算の実績	P.4	6. 財務ハイライト	P.15
3. 3ヶ年計画	P.9	7. 参考	P.17
4. 株主様への還元	P.13		

1. 決算のポイント①／19/3期実績

高気温でガス販売量伸びず、営業利益は計画比▲1億円となる89億円

- 19/3期は年間を通じた高気温でガス販売量伸びず（計画比▲69千トン／同▲9%）。LPガスで採算良化させるも粗利益は計画比▲3億円、販管費を計画内でコントロールするも僅かに及ばず、営業利益は計画比▲1億円の89億円となった。

	19/3期 (計)	19/3期 (実)	コメント
ガス販売量 (千トン)	746	677	高気温によりガス販売量伸びず
粗利益 (億円)	583	580	LPガス採算良化
営業利益 (億円)	90	89	販管費コントロールも及ばず
純利益 (億円)	51	43	海外事業(持分法)の損失を取込
EPS (円)	119	102	発行済株式数は消却により減少

1. 決算のポイント②／20/3期計画

19/3期より寒い想定。販売量伸長させ、各段階で増益を計画

- 19/3期より寒い想定。顧客純増と合わせて販売量を大きく伸ばし、各段階で増益させる。
- 純資産は還元で引き締まる。増益と合わせてEPSとROEは良化。FCFはプラスに転換。
- 当社の成長を再定義する。当社は顧客基盤の拡大により成長する。中でも最優先はLPガス。

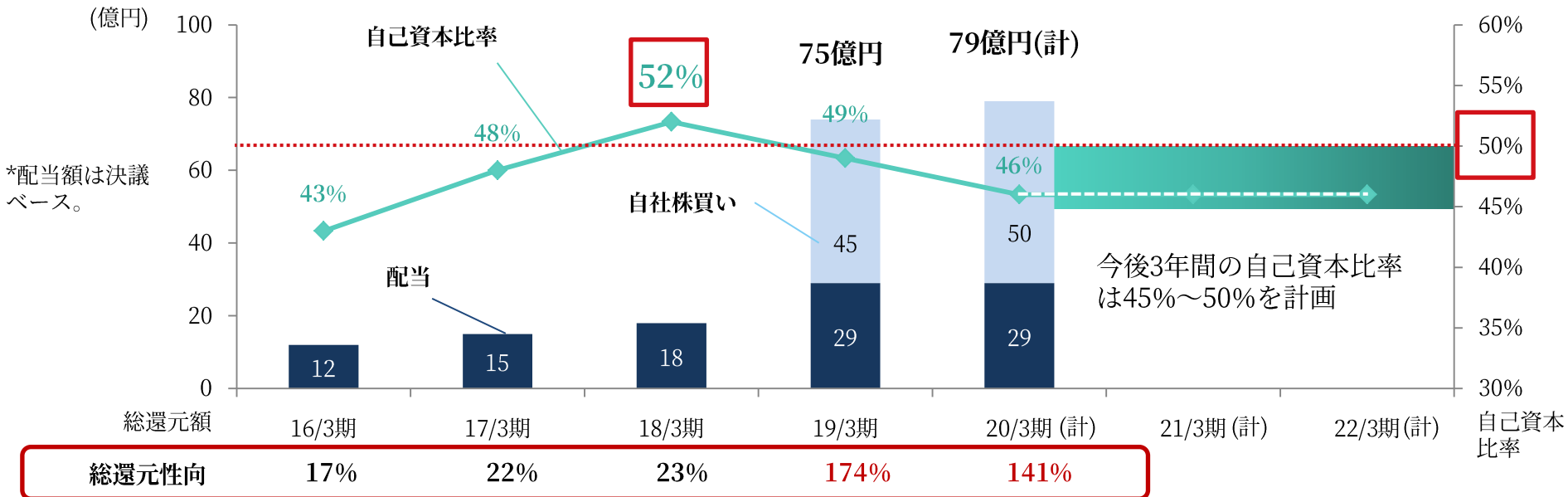
	19/3期 (実)	20/3期 (計)	コメント
ガス販売量 (千トン)	677	767	19/3期より寒い想定。顧客も拡大
粗利益 (億円)	580	637	販売量増加。増益
営業利益 (億円)	89	105	販管費増をこなして増益
純利益 (億円)	43	56	30%増益
EPS (円)	102	135	純利益増を計画
FCF (億円)	▲117	10	営業CF173億円、投資CF163億円
ROE	6.1%	8%程度	純資産は現状レベルを維持

1. 決算のポイント③／CF配分と資本政策

財務基盤は十分。成長投資を加速させつつ、株主還元を継続

- 資金調達力は十分であり、還元と合わせて成長投資を強化。19/3期にLPガス充填基地用地を取得、続いて、20/3期もLPガスのM&A、ICT等への投資を加速させる（CF詳細はP. 16）。
- 20/3期も自社株買いを実施、総還元額を75億(19/3期)から79億(20/3期)に4億円増加させる。自己資本比率は18/3期に50%を超え、財務基盤充実。今後3年間は45-50%の水準を計画。

億円	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期(計)	21/3期(計)	22/3期(計)
営業CF	207	166	156	152	173	-	-
投資CF	111	107	71	268	163	-	-
総還元額	12	15	18	75	79	-	-
（配当）	12	15	18	29	29	-	-
（自社株買い）	-	-	-	45	50	-	-
自己資本比率(%)	43%	48%	52%	49%	46%	45%~50%	



2. 決算の実績／サマリー（18/4月-19/3月）

高気温が影響し粗利伸びず。お客様数大幅増加も営業利益段階で減益

- 高気温が影響しLPガスと旧都市ガスの販売量大幅減、新都市ガスで販売量伸ばすも、全体で前年並み。粗利は微増するも、販管費は人件費やホ°レーションコスト等を中心に増加(前期比+20億円)、営業利益段階で減益（同▲18億円）となった。
- お客様数は、新都市ガスで大きく伸長し、前期比+158千件となる1,496千件。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減、増減率は億円表示処理後で算出。

全セグメント合計 (億円)	18/3期	%	19/3期	%	増減	増減率	コメント
売上高	1,147	100%	1,226	100%	+79	+7%	
粗利益	578	50%	580	47%	+2	+0.3%	
販管費	471	41%	491	40%	+20	+4%	・計画比▲2億円
(人件費)	128		132		+4	+3%	・従業員の増加、給与水準引き上げ等
(広告宣伝費)	26		22		▲4	▲15%	
営業利益	107	9%	89	7%	▲18	▲17%	
(LPガス事業)	80		69		▲11	▲14%	
(旧都市ガス事業)	46		35		▲11	▲24%	
(新都市ガス事業)	▲19		▲15		+4	-	
当期純利益	78	7%	43	4%	▲35	▲45%	・北米事業の損失14億円取り込み
お客様純増数(千件)	138		158		+20	+14%	・大幅増も計画未達
お客様数(千件)	1,338		1,496		+158	+12%	
ガス販売量(千トン)	674		677		+3	+0.4%	
(LPガス事業)	330		306		▲24	▲7%	・高気温の影響
(旧都市ガス事業)	323		311		▲12	▲4%	・高気温の影響
(新都市ガス事業)	21.4		59		+37.6	+176%	・お客様数の増加による

2. 決算の実績／LPガス事業

高気温によりガス販売量伸びず。付帯ビジネス伸び粗利で増益もコスト増加、営業利益減

- ガス販売量は高気温により大幅減少(前期比▲7%)も、下期の原料価格低下でガス粗利の採算が良化、プラットフォーム等の付帯ビジネスも拡大し、粗利段階で増益(同+8億円)。
- 販管費では、顧客獲得費用が減少したものの、コールセンター費用、ICTへの先行投資に加え、電気事業分のコストを吸収したこと等で同+19億円の増加。営業利益段階で減益(同▲11億円)。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減、増減率は億円表示処理後で算出。

LPガス事業 (億円)	18/3期	%	19/3期	%	増減	コメント
売上高	647	100%	674	100%	+27/+4%	
(内、ガス)	565		568		+3/+1%	
(内、機器・工事他)	82		106		+24/+29%	・プラットフォーム収益(2億円計上)、土地賃料を含む
粗利益	373	58%	381	57%	+8/+2%	・ガス粗利の採算が良化 ・付帯ビジネスも拡大
販管費	293	45%	312	46%	+19/+6%	
(人件費)	88		91		+3/+3%	・給与水準の引上げ等
(顧客獲得費用*)	73		64		▲9/▲12%	・獲得数の減少による
(償却費)	38		34		▲4/▲11%	
営業利益	80	12%	69	10%	▲11/▲14%	
顧客獲得費用を除く 営業利益(ご参考)	153		133		▲20/▲13%	
お客様純増数(千件)	32		25		▲7/▲22%	
お客様数(千件)	828		852		+24/+3%	
ガス販売量(千トン)	330		306		▲24/▲7%	・高気温の影響
家庭用	192		182		▲10/▲5%	
業務用	137		124		▲13/▲9%	

*“顧客獲得費用”はLPガスの顧客増加と維持に要した費用 (ホソバ・メーター類・サービス品・営業費用等の合計)

2. 決算の実績／旧都市ガス事業

高気温でガス販売量が大幅減少して減益。顧客の他社への切替は減少基調

- ガス販売量は高気温により大幅減少。機器・工事他の売上減少も加わり粗利段階で減益（前期比▲15億円）。販管費を減少（同▲4億円）させるもこれを補えず、営業利益段階で減益（同▲11億円）となった。
- お客様数は通年で僅かに純減（同▲0.8千件）となったものの、1月以降にスタートした電気とのセット販売が奏功し、他社への切替数は足元減少基調となっている。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減、増減率は億円表示処理後で算出。

旧都市ガス事業 (億円)	18/3期	%	19/3期	%	増減	コメント
売上高	450	100%	447	100%	▲3/▲1%	
(内、ガス)	367		387		+20/+5%	
(内、機器・工事他)	82		59		▲23/▲28%	・集計区分の変更により減少
粗利益	197	44%	182	41%	▲15/▲8%	・ガス販売量と機器販売の減少等が影響
販管費	151	34%	147	33%	▲4/▲3%	
(人件費)	39		36		▲3/▲8%	
(償却費)	60		63		+3/+5%	
営業利益	46	10%	35	8%	▲11/▲24%	
お客様純増数(千件)	7.5		▲0.8		▲8.3/-	・他社への切替は減少基調
お客様数(千件)	412		412		▲0.8/▲0.2%	
ガス販売量(千トン)	323		311		▲12/▲4%	
家庭用	124		114		▲10/▲8%	・高気温の影響
業務用	199		197		▲2/▲1%	
スライドタイムラグ	▲1.6		▲2.5		▲0.9/-	

2. 決算の実績／新都市ガス事業

お客様数大幅伸長によりガス販売量は増加。経費増をこなして採算改善

- お客様数大幅増により粗利益増(前期比+9億円)。オペレーション費用増加も広告宣伝費が減少、販管費の増加を吸収し、**営業利益は改善 (同+4億円)**。
- **足元の申込数は、引越し、不動産事業者等の外部パートナーとのタイアップが進み増加基調**。20/3期より電気とのセット販売を本格展開。申込手続の簡素化も進め、15万件の顧客純増達成を図る。

*実数の単位未満は端数処理。 *増減、増減率は億円表示処理後で算出。

新都市ガス事業 (億円)	18/3期	%	19/3期	%	増減	コメント
売上高	50	100%	105	100%	+55/+110%	
(内、ガス)	27		85		+58/+215%	
(内、機器・工事他)	23		20		▲3/▲13%	
粗利益	8	16%	17	16%	+9/+113%	
販管費	27	54%	32	30%	+5/+19%	
オペレーション費用他	9		17		+8/+89%	・獲得経費、人件費等
広告宣伝費	17		12		▲5/▲29%	・TVCM費用減
託送料(東京ガス社分のみ原価計上)	0.9		3		+2.1/+233%	・地方都市ガス会社に支払う託送料。お客様切替進捗に伴い増加
営業利益	▲19	▲38%	▲15	▲14%	+4/-	
お客様純増数(千件)	98		134		+36/+37%	
お客様数(千件)	98		232		+134/+137%	
ガス販売量(千トン)	21.4		59		+37.6/+176%	・お客様数の大幅増加による
家庭用	15.9		45		+29.1/+183%	
業務用	5.5		14		+8.5/+155%	

2. 決算の実績／電気事業

18/11月より電気事業を開始。年明け以降グループ° 全社での営業スタート

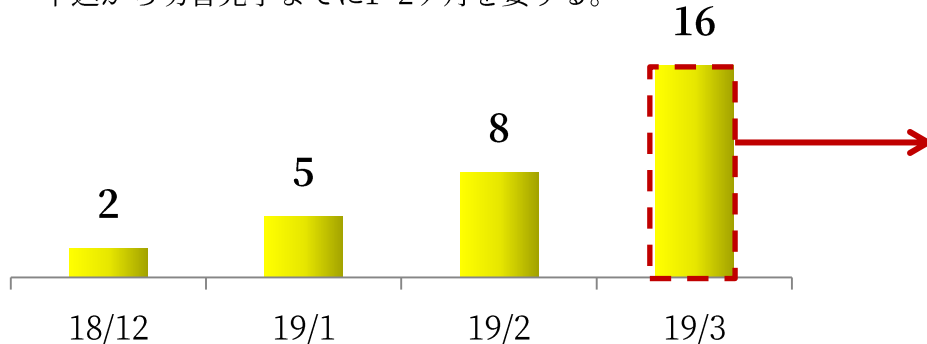
- 18/11月より、業界最安値を目指す電気・ガスのセット° ランの提供を開始。19/1月よりグループ° 全社で申込受付開始。19/2月からは「総額1億円！キャンペーン」も開始、19/3末の顧客数は16千件。営業体制を整えるほか、Web上での手続の簡素化等を進める。
- 電気とのセット° ランを追い風に、最優先であるLPガスの顧客純増数を増加させる。



顧客数の推移(千件)

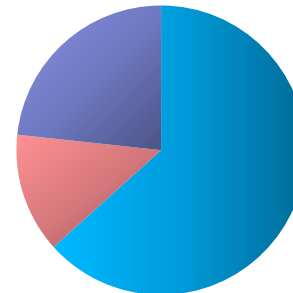
19/1月以降にグループ° 全社で申込受付開始。営業体制の整備、Web手続の簡素化等を進める。

*申込から切替完了までに1~2ヶ月を要する。



お客様セグメント別内訳 (19/3月末時点)

- LPガス
- 旧都市ガス
- 新都市ガス



LPガスとのセット販売割合が高い。電気とのセット° ランを追い風に、LPガス顧客純増数を増加させる。

3. 3ヶ年計画：サマリー

顧客純増目標を修正。利益計画は気温予想を前提。資本政策のがトラインを示す

- 顧客純増目標の未達を真摯に受け止め、計画を引き下げて修正。最優先はLPガス純増とする。
- 気温の変化による利益の大幅変動を避けるため、利益計画は気温想定に基づいたものとする。
- ICTプラットフォームの収益化に目途。収益計画を公表する。
- 資本政策のがトラインを示す。

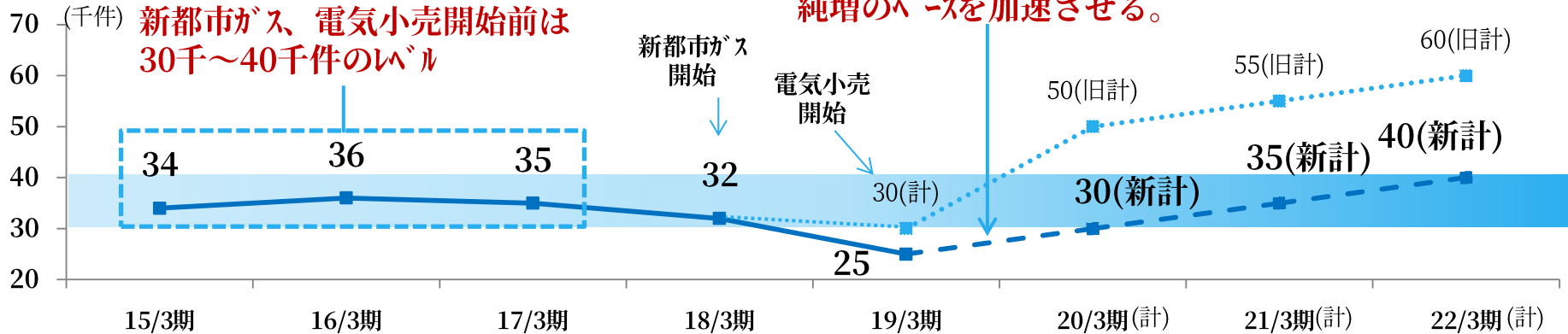
	19/3期(計)	19/3期(実)	20/3期(計)	21/3期(計)	22/3期(計)	
顧客純増数 (千件)	LPガス	30	25	30	35	40
	旧都市ガス	0	▲1	0	0	0
	新都市ガス	200	134	150	150	150
	電気	50	16	100	100	100
	気温想定	—	暑い	平年並み	—	—
収益計画 (億円)	粗利益	583	580	637	—	—
	LPガス	378	381	417	—	—
	旧都市ガス	187	182	188	—	—
	新都市ガス	17	17	27	—	—
	電気	1	—	5	—	—
	営業利益	90	89	105	—	—
	プラットフォーム収益	—	2	4	8	10
資本政策	自己資本比率	—	49%	46%	45~50%	45~50%
	総還元性向	—	174%	141%	—	—
	ROE	—	6.1%	8%程度	10%程度~	10%台前半~

3. 3ヶ年計画：顧客純増数

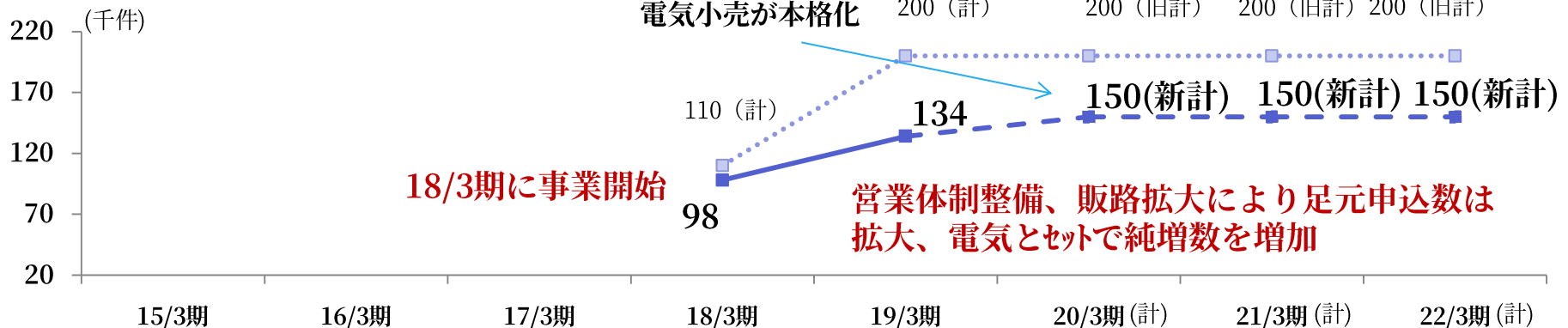
顧客純増数計画を見直し。最優先はLPガス

- 競争環境等を踏まえ、顧客純増計画を引き下げて見直し。LPガス純増数は概ね過去実績レンジ内。人的ツールの配分見直しを徹底、中長期での成長を追求する。新都市ガスは販路拡大、電気セットにより、足元申込み拡大中。申込み手続きも簡素化し、純増数を拡大させる。

LPガス純増数



新都市ガス純増数



3. 3ヶ年計画：気温想定

19/3期は高気温がガス販売量に大きく影響。20/3期は平年並みを予想する

- 19/3期は高気温となりガス販売量が大きく減少、業績予想の修正に繋がった。この点を踏まえ、利益計画は気温想定に基づいたものとする。
- 20/3期は、専門機関の気温予想を参照し、平年並みの気温（19/3期より寒い）を予想する。

	17/3期(実)	18/3期(実)	19/3期(実)	20/3期(計)	21/3期	22/3期
平均気温*1	16℃	15℃	17℃	平年並み	NA	NA
平年値*2	15℃	15℃	15℃	—	—	—
1件あたり 家庭用ガス販売量*3	252kg	262kg	241kg	—	—	—

参照元：気象庁ホームページ、専門機関より取得した情報

*1：当社営業エリア(関東1都6県、山梨、静岡)の平均気温

*2：当社営業エリアの1981年~2010年の平均気温（参照元：気象庁ホームページ）

*3：家庭用ガス販売量(LPガス+都市ガス)を、前期末・当期末の顧客数の平均値で除して算出（参照元：当社ホームページ掲載データ）

3. 3ヶ年計画：旧・新計画の詳細

- 顧客純増計画の修正等を踏まえ、営業利益目標を125億円から105億円に引き下げ。最優先はLPガス純増。リソースの配分を徹底する。

	旧計画			新計画		
	20/3期	21/3期	22/3期	20/3期	21/3期	22/3期
気温想定	—	—	—	平年並み	—	—
営業利益 (億円)	125	150	175	105	—	—
顧客純増数 (千件)						
LPガス	50	55	60	30	35	40
旧都市ガス	10	10	10	0	0	0
新都市ガス	200	200	200	150	150	150
電気	200	200	200	100	100	100

4. 株主様への還元

財務基盤の充実が進んだことを背景に、成長投資と株主還元を両立

- 配当は、19/3期に1株あたり配当を70円に大幅増加。20/3期も70円で据え置く。
- 自社株買いでは、19/3期に45億円(125万株)の買入実施、20/3期に新たに50億円の買入枠設定。
- 金庫株は、559万株を19/3期に消却。自社株買いで買い入れた株式も消却し発行済株数は減少。

配当

財務基盤の充実を背景に、自社株買いにより還元を強化。

(億円)	16/3期 (実)	17/3期 (実)	18/3期 (実)	19/3期 (実)	20/3期 (計)
1株あたり配当額(円)	30円	34円	42円	70円	70円
配当額	12	15	18	29	29
自社株買い	2百万円	2百万円	3百万円	45億円	50億円
総還元額	12	15	18	75	79
総還元性向	17%	22%	23%	174%	141%

*配当額は決議ベース。

自社株買い

20/3期は50億円（上限）の自社株買いを計画。

	19/3期 (実)	20/3期 * (計)
買入金額	45億円	50億円(上限)
買入株数	125万株	165万株(上限)

*買入期間：2019年5月1日～2020年4月30日

金庫株の消却

発行済株数は43百万株程度に減少。

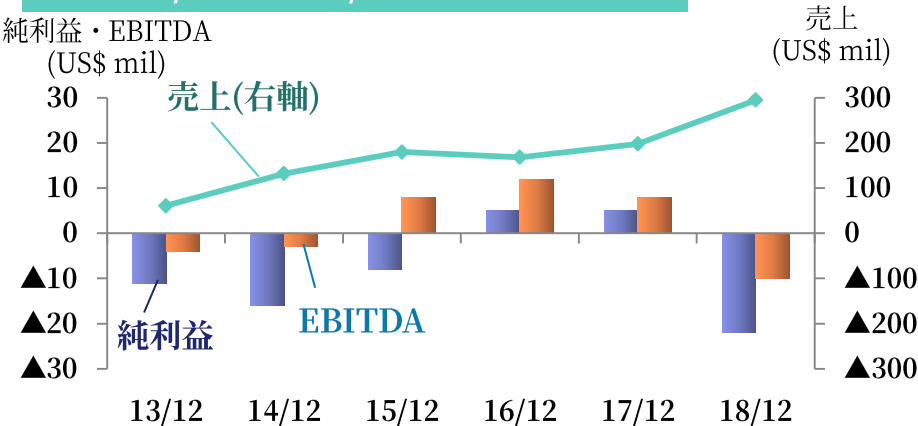
	19/3期(実)
消却株数	559万株
期末発行済株数	4,297万株

5. 海外事業（北米事業）

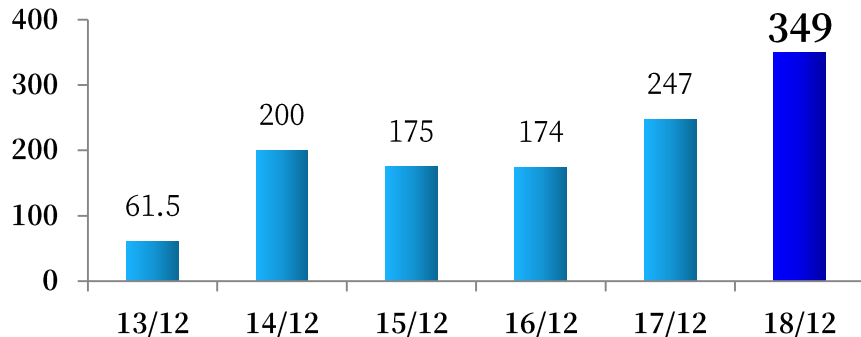
18/12期で損失計上。電力調達価格の高騰で粗利率が低下

- お客様数は18/12月末で34.9万件まで増加。異常気象と、大規模火力発電所の閉鎖による電力需給逼迫で、調達価格が高騰し粗利率が大幅低下。18/10-12月で利益率は改善も、18/12期通期で損失を計上、約▲US\$12milの営業外損失を取り込み。営業チャネルの見直し、電力調達戦略の強化等による、利益率改善を進めている。

13/12期-18/12期 業績



お客様数の推移 (千件)



19/3期 営業外損益への影響

19/3期1Q(累計)

約▲\$3mil

19/3期2Q(累計)

約▲\$5mil

19/3期3Q(累計)

約▲\$9mil

19/3期(累計)

約▲\$12mil

- ・ 18/1-3月に大寒波により調達価格上昇

- ・ テキサス州で、猛暑により電力需要が増加。大規模火力発電所の閉鎖も相俟って、電力需給が逼迫

- ・ 18/10-12月で利益率改善も、18/12期通期で損失を計上
- ・ 営業チャネルの見直し、電力調達戦略の強化等を進めている

※北米事業は持分法適用(50%)。
3ヶ月遅れで営業外損益に取り込み

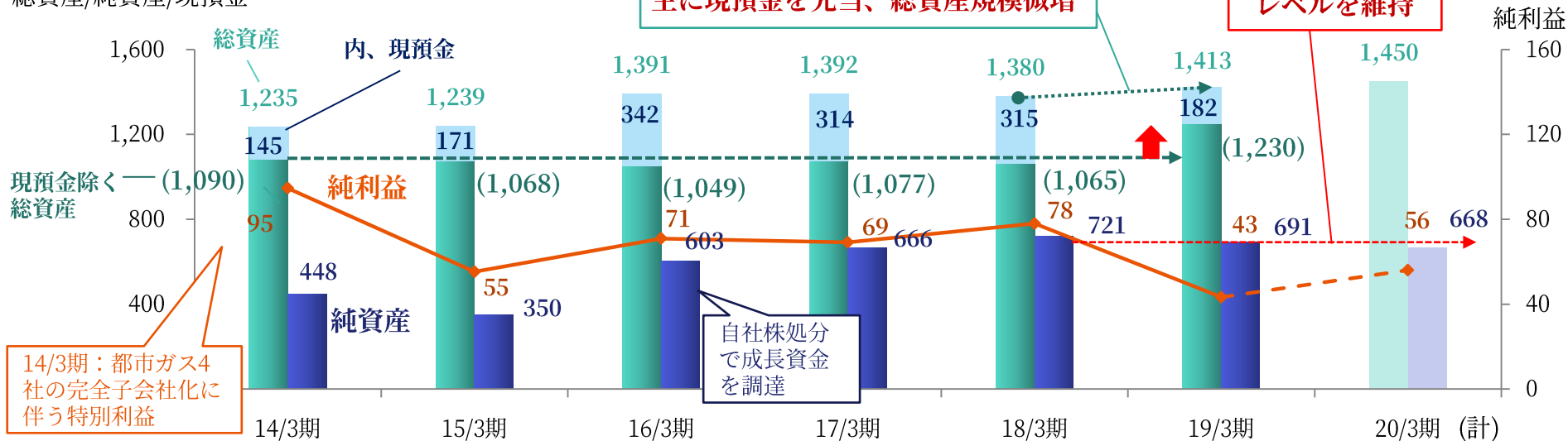
6. 財務ハイライト／B/S

LPガス充填基地の用地取得も資産規模維持。純資産は現状レベルで推移させる

- LPガス充填基地用地を取得も、手元現金を活用し資産規模は1,400億円のレベルを維持。自己資本比率は19/3末時点で49%と財務基盤(純資産レベル)は十分。純資産は20/3期以降も現状レベルを維持する。

B/Sと純利益の推移(億円)

総資産/純資産/現預金



B/S (億円)	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期(計)
自己資本比率	36%	28%	43%	48%	52%	49%	46%
有利子負債	515	639	539	474	414	473	—
D/E Ratio	1.1倍	1.8倍	0.9倍	0.7倍	0.6倍	0.7倍	—
ROA ^{*1}	7.7%	4.5%	5.1%	5.0%	5.7%	3.0%	4%程度
ROE ^{*2}	22.2%	13.9%	14.9%	10.9%	11.2%	6.1%	8%程度

*1 ROA=当期純利益÷総資産×100

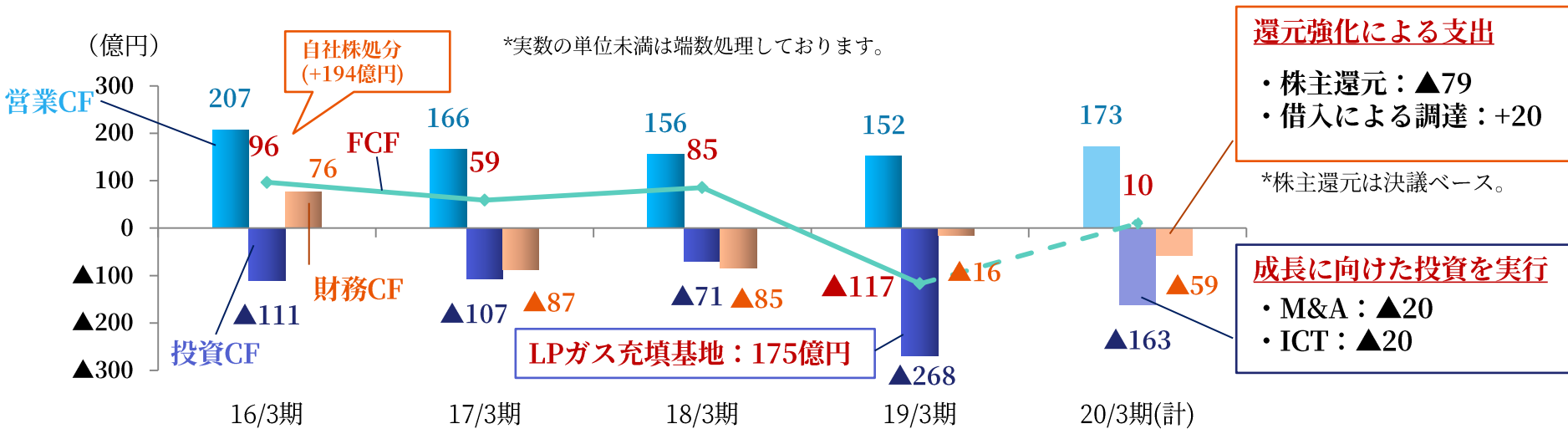
*2 ROE=当期純利益÷(前期および当期純資産の平均値)×100

*実数の単位未満は端数処理。

6. 財務ハイライト / Cash Flow

19/3期はLPガス充填基地の用地を取得。FCFは20/3期にプラスに転じる

- 19/3期は、LPガス充填基地の用地を取得。2020年中に稼働予定、収益貢献開始する。
- 20/3期は、LPガスのM&AやICT等に投資を進めるも、FCFは黒字に転換予定。株主還元(配当29億円、自社株買入50億円)による財務CFマイナスは手元現金で調達する。



Capex

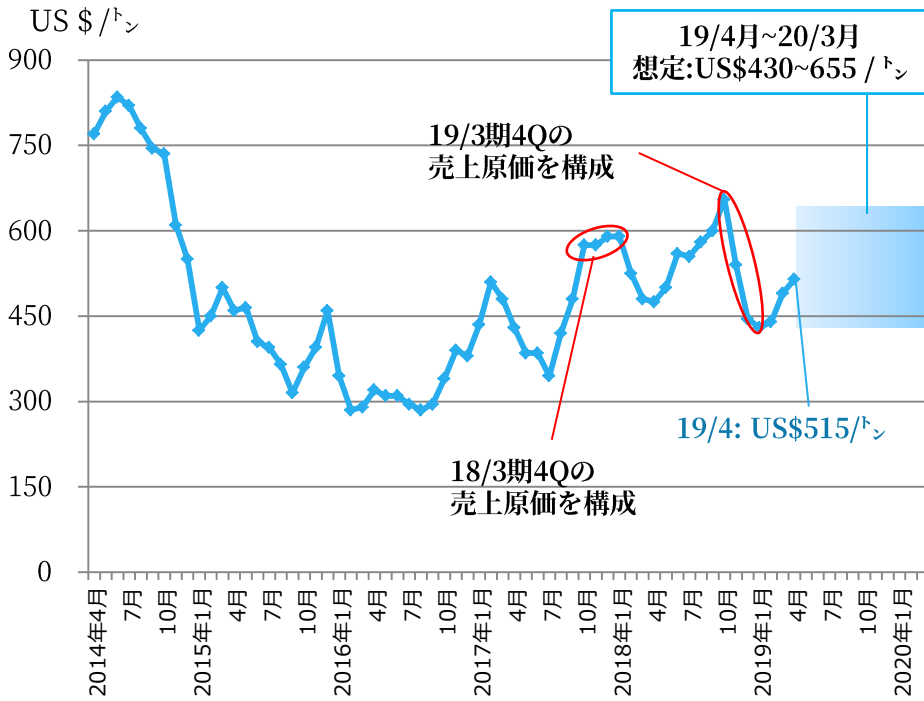
(億円)	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期(計)	コメント
LPガス事業	27	21	19	201	58	・19/3~20/3期は基地関連投資で増加
旧都市ガス事業	69	66	60	58	65	・導管入替完了とともに遞減する
ICT	15	14	9	14	20	・プラットフォーム事業、オペレーションの進化
M&A	3	4	1	0.3	20	・LPガスの商圏買収

7. 参考 / 原料価格の推移

18/11月以降、LPガス原料価格低下。4QのLPガス事業の追い風に

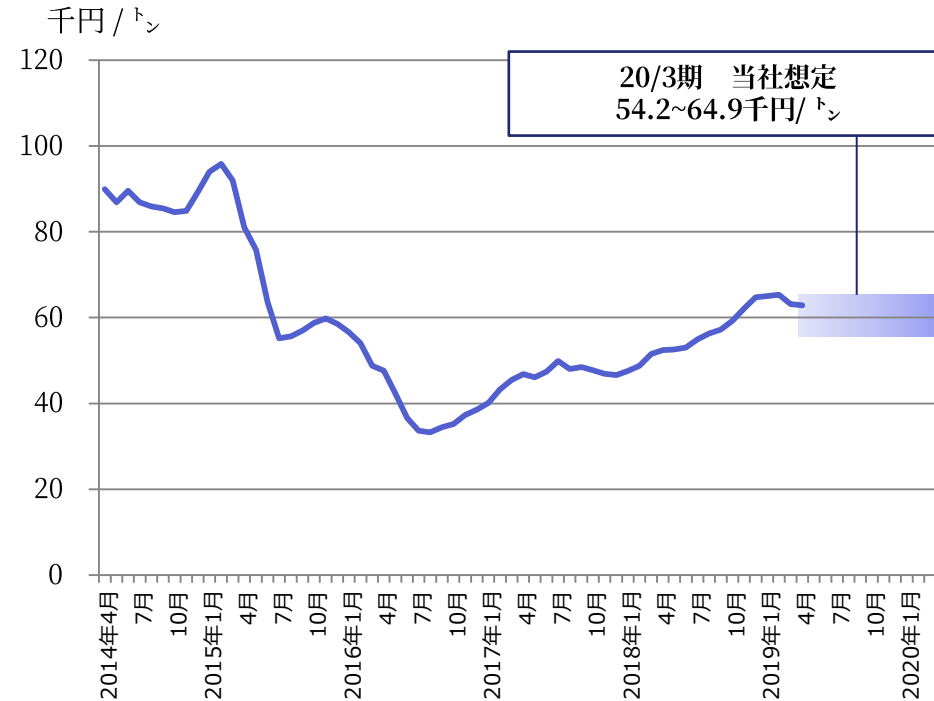
- LPガス原料価格は、18/11月より低下、4Q売上原価は下期想定(US\$720/トン)を下回った。20/3期の想定は、足元レンジ(19年4月：US\$515/トン)を鑑み、US\$430~655/トンとする。
- 20/3期の為替の想定は1ドル：112円。

プロパンガスFOB価格推移



為替想定
20/3期：112円/US\$

LNG原料価格推移



出典 ・ FOB価格：日本LPガス協会ホームページ
・ LNG原料価格：当社平均仕入価格